

2020年度出川真也研究室活動（概要）

2021年4月

2020年度、当研究室では、コロナ禍の状況においてオンラインに専念した活動を展開した。

1. 調査研究

- (1) 過年度調査・研究成果のとりまとめとウェブサイト（資料掲載ページ等）の充実化
これまでの研究・教育・実践活動の成果を取りまとめ、ウェブサイトへ公開。オンライン授業や共同研究等で活用できるよう整備した。

地域創生の教育学>資料室,

<https://degawaken.com/%e8%b3%87%e6%96%99%e5%ae%a4-3/>

- (2) 実習教育アセスメント研究設計と情報収集

エンロールメント・マネジメント研究所における研究プロジェクトの位置づけとして、実習教育アセスメントにかかわる研究設計を行い、全国的視野での情報収集を行った。今後10大学程度を選定し事例調査を推進する予定である。

- (3) 遠隔教育研究設計と初動調査の実施

2020年度実施されたオンライン授業の評価を、GPA、学生授業評価を基に、授業形態とオンライン形態別に、対面授業時との比較分析を行った。いくつかの特徴的な傾向が得られた一方で、一概に評価できない複雑な結果が示されており、継続的な調査分析が必要であることが示唆されている。

- (4) 参加型地域教育アセスメント研究の推進

岡山大学地域総合研究センターと大正大学エンロールメント・マネジメント研究所との研究協定事業「参加型地域教育アセスメントの共同研究」を研究代表者として推進。過年度実施したアンケート分析を行い、計画行政学会での報告及び現地報告を行った。また報告内容を同研究所紀要へ掲載した。

今後、現地への追加ヒアリングを通じて、研究方法のパッケージ化と確立を図り、さらに実習教育活動が展開する他の実践地域へ研究対象地域を拡大していく予定である。

2. 社会教育・生涯学習関連活動

- (1) 一般社団法人日本社会教育士会

2020年度より始まった国の社会教育士称号制度を受けて、社会教育士の職能団体と

して発足し、法人化した。当研究室で事務局を担当することとなった。

(2) 社養協・社会教育実習支援ネットワーク

社会教育主事養成課程における社会教育実習の必修化が今年度より始まった。

過年度に引き続き、同ネットワークでは、実習に関する情報収集を行った。また、コロナ禍における実習状況に関して、養成校及び実習先施設・団体への緊急アンケート調査を2回にわたって実施し、分析した。以上によって得られた情報をネットワークホームページのデータベースに追加した。

また、国土緑化推進機構助成事業を活用した森林環境教育（森林 ESD）指導者養成にかかわる調査研究を推進した。

当研究室では一連の業務の事務局を担当した。

(3) 特定非営利活動法人社会教育士活動支援機構の立ち上げ準備

日本社会教育士会・関連支援組織設立準備会事務局として、特定非営利活動法人社会教育士活動支援機構の立ち上げ準備を推進した。社会教育士の任採用先のネットワーク団体としての性格を帯びる同機構を設立するための仕組み設計と諸調整を行った。定款の策定が完了しており、次年度早期に立ち上げる段階となった。

3. 地域づくり学習活動の実践

(1) オンライン実習における4地域団体パネルディスカッションの企画・開催

宮城県気仙沼市の一般社団法人まるオフィス、新潟県粟島浦村のわかぜの会、新潟県上越市のNPO法人かみえちご山里ファン倶楽部、滋賀県近江八幡市の八幡山の景観を守る会の4団体のメンバーを招いたオンラインパネルディスカッションを開催した(2020年10月6日開催)。地域創生学部1年生向け授業、地域実習Iの一環として、当研究室担当パートにおいて実施した。

地域づくりをめぐる教育・学習・人材育成について、地域回帰や継承のありかた等を中心にしながら、課題と今後の展望について、活発な議論が行われた。

(2) オンラインイベント（文化祭）の開催

2020年度生涯学習施設実習受講学生と共に、としま案内人駒込・巣鴨のメンバーや卒業生などを交えたオンライン文化祭を開催。オンライン下の活動報告やオンラインでの体験活動、今後の展望等について情報交換を行った。

(3) 新潟大学地域創生推進機構テーマ別懇談会での報告

2020年10月12日、新潟大学地域創生推進機構主催による「第8回新潟大学テ

マ別懇談会「「コミュニティ自治」展開過程の調査・分析結果について～住民主体の地域づくり団体がどのように生まれ展開したか～」に登壇。「「参加」「交流」「学習」を軸としたコミュニティ自治の展開プロセスと次世代に向けた地域に根ざした継承価値の創出」と題して、令和元年度 NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部と連携して行った調査研究成果を報告した。

特に地域づくりにおいて住民と団体構成員相互の「学習」活動を基軸とした主体形成が重要であること、そしてその成果を活動主体自身が実感できる形で可視化していくための支援が必要であることを提起した。

4. NPO/市民団体連携活動

(1) NPO 法人里の自然文化共育研究所

実践研究の主要連携先として、また、生涯学習施設実習の実施先として同研究所と活動を展開。(独法)国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金助成事業「遊びながら学ぶ田舎暮らし」を中心に、山村・農村での体験活動の総合コーディネートを実践した。

(2) NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部

子どもゆめ基金事業「遊びながら学ぶ田舎暮らし - 農村の自然 -」を中心に、連携した活動を実施。2021年2月14日、雪の子ども体験活動を開催。また先立って、オンラインによる雪の里山での試行プログラムを東京学芸大学の有志学生2名と一般参加者4名を交えて実施した。オンラインを活用した体験プログラムの一連のパッケージについて検討を行った。

(3) 八幡山の景観を守る会

同団体が取組む滋賀県近江八幡市の八幡山の保全フィールドにおいて、子どもゆめ基金事業「遊びながら学ぶ田舎暮らし - 水郷と交流 -」により親子体験活動として、散策会及び水郷でのカヌーや畑体験活動等を行った。研究室では講師派遣や情報収集・発信活動等での連携支援に取組んだ。

(4) 浦戸桂島復興連絡協議会

宮城県塩竈市浦戸諸島において、同団体が取組む「松島湾浦戸諸島における震災復興と生物多様性保全を相乗的に促進する里山植生保全・活用事業」を支援。当年度はコロナ禍のため島への訪問ができなかったが、本土側の関連施設やフィールド等の情報収集や過年度実施活動の成果のとりまとめ作業などを行った。現在、持続可能な推進体制を構築するため、新たな現地法人団体の設立の準備を進めている。

(5) その他

コロナ禍を契機として、研究室環境のオンライン化を推進。ウェブカメラ、コンデンサーマイク、チームス、ズーム、スカイプ等のソフト・ハード両面でのオンライン環境を整備した。併せてウェブサイトの構築・拡充を行った。

■次年度に向けて

2020年度の活動を踏まえて、2021年度は以下の取組を推進していく予定である。オンラインでの活動を継続しつつ、新型コロナウイルスの感染状況をみながら対面フィールドワークを再開する。教育・学習分野における繊細な機微にかかわって現場フィールドでなければ取り組むことができない情報・意見交換、調査・研究、教育・実践活動等を推進していく予定である。

1. 研究・調査活動

- (1) 地域づくり学習研究論文のとりまとめ
 - ・過年度研究成果のとりまとめと体系化
- (2) 参加型地域教育アセスメント研究の推進
 - ・岡山大学との協定事業を軸とした研究方法パッケージ化と他フィールドへの展開
- (3) 実習教育アセスメント研究の推進
 - ・事例検討と実習地ネットワークづくり
- (4) 遠隔教育アセスメント研究の推進
 - ・分析の継続と成果のとりまとめ
- (5) 組織文化と地域づくり学習研究の設計構築（新規）
 - ・地域回帰、地域継承、組織文化、アセスメントに係る地域学習実践研究の設計

2. 連携・実践活動

- (1) 特定非営利活動法人社会教育士活動支援機構の立ち上げ支援
 - ・設立業務
 - ・事務局体制構築
- (2) 一般社団法人日本社会教育士会関連活動への連携協力
 - ・研修、シンポジウムの推進
 - ・推進体制の拡充・強化
- (3) 社養協・社会教育実習支援ネットワークへの連携協力
 - ・実習先・養成校交流学习会合の推進
 - ・実習ハンドブックの作成
 - ・地区別会合の定式化による情報収集体制の強化とDBの拡充